

海外からみた日本

「ビアガーデン」って日本特有なの！？

ビアガーデンを利用する日本人と外国人とは大きな違いが！

ANAクラウンプラザホテル京都（京都市中京区）で開催中の屋上ビアガーデン「キョウト・スカイ・バル」。日本人の夏の楽しみの一つでもある「ビアガーデン」、実は海外では夏だけOPENする日本の「ビアガーデン」に興味を持つ方が多いようです。

当ホテルも宿泊だけでなく、ビアガーデンをご利用される外国人のお客様も多くなりました。

ただ、ビアガーデンの楽しみ方が、日本人と外国人では大きな違いがあります。

それは・・・日本人は、「お酒と食べ物」を一緒に大勢で賑やかに楽しむ。しかし外国人の方は「お酒とおつまみで、ゆったりとした時間」を楽しむ。という点が日本人との大きな違いです。

実際、外国人のお客様のテーブルを見ていると、ビール片手に簡単なおつまみのみご注文されている方が多く、ビアガーデンで“食事をする”という感覚が無く、“食後”の時間をのんびりと過ごしているといった印象です。

当ホテルのビアガーデンは、食べ放題メニューを中心としている、他のビアガーデンと比べ、アラカルトメニューが豊富で、お好みのものを少しずつオーダー出来る。そういったメニューが、「外国人のビアガーデンでの楽しみ方」と合っているのかもしれない。

蒸し暑い日本の夏をビールとともに夕方の涼しさをお楽しみいただける事は各国共通です。最近では、珍しい日本のビアガーデンを海外のお客様への接待などでも使うこともあり、これからも日本の「ビアガーデン」の人気は益々高まりそうです。



「今年初登場の
“ロースターチキン”と“焼肉セット”」



京都らしい食材を使用したメニューが充実！

海外のお客様にも楽しんでいただけるよう英語版メニューもご用意！
和洋両方楽しめ、世界遺産を眺めながら観光気分を満喫していただけます。



「湯葉と水菜のシーザーサラダ」



「鱧の炙りラタトゥイユ添え」



「京漬物の盛り合わせ」

■ANAクラウンプラザホテル京都について



ANAクラウンプラザホテル京都がある京都の堀川二条は平安時代、日本史上初の関白宣下を受けた藤原基経の邸宅でした。平安京の中でも「最高の館」と謳われた堀河院跡に立地し、庭園の一部が当ホテル駐車場の東北角に復元され、往時の姿をしのぶことができます。江戸時代、当時大ベストセラーになった「養生訓」の著者で儒学者の貝原益軒の学問の師匠である松永昌三の講習堂跡の石碑がホテル入口（東堀川通り）に建てられています。天保年間から幕末まで二条城の大手門の正面に立地することから、越前松平家が藩主を務めた福井藩邸がこの地にありました。

明治維新後の廃藩置県を経て、旧三井財閥の三井家京都本邸となり、第二次世界大戦後の財閥解体ののち裕進観光株式会社がこの地を取得。1963（昭和38年）より、京都全日空ホテルの前身である「二条観光ホテル」を営業しておりました。1986年（昭和61年）6月25日に開業した「京都全日空ホテル」は、2013年2月1日にANAクラウンプラザホテル京都として共同ブランド化しました。古都京都の中央に位置し世界文化遺産「二条城」のほとりにたたずむ寛ぎのホテルとして、ビジネスやレジャーのご宿泊、レストラン、そして宴会や婚礼の会場として、国内外の幅広いお客様に愛されています。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前

URL：www.anacpkyoto.com

：本件に関するお問合せ先：

ANAクラウンプラザホテル京都 企画担当 桐山 淳子
TEL：075-231-1155（代表） FAX：075-252-8577 E-mail：marketing@anacpkyoto.com